

子どもの運動不足解消

袋井遊び指導者育成へ講習会

袋井市スポーツ協会と市教育委員会は28日、「運動遊び促進指導者講習会」を市総合体育館さわやかアリーナで開いた。市内の保育士や教員らが子どもたちの身体活動に関する知識や技術を学んだ。

運動生理学を研究する静岡理工科大(同市)の富田寿人教授が講師を務め、幼少期における身体活動の重要性を講義。「日常生活から体を動かす機会が減っている。体を動かして遊ぶことで活動量と質を高めることが大事」と強調した。参加者全員で鬼ごっこをアレンジした運動遊びなども行った。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休園、休校などによって子どもたちの運動不足が懸念されることから、初めて開催した。

12月にも同様の講習会を開催する予定。参加した浅羽北幼稚園の太田茉莉教諭は「子どもたちに分かりやすい言葉掛けを意識することなど、職場で生かしていきたい」と話した。



参加者が運動遊びを実践した講習会
＝袋井市総合体育館さわやかアリーナ